



フクシマの子どもの未来を守る家ニュース

No. 64 (2019年6月16日発行)

5月19日(日)14時～フクシマの子どもの未来を守る家第8回総会が開催

総会は稲生の「守る家」にて開催され、11名のサポーターが参加しました。始めに「守る家」の活動の出発点に立ち返る目的で、DVD「放射能から子どもたちを守るために」を視聴し、その後議事に入りました。2018年度活動報告・決算、2019年度活動方針・予算案が満場一致で可決されました。

討議の中で、近年フクシマから保養にくる家族数が減少傾向にあること、また東日本大震災・福島原発事故の被災者支援活動への助成金がほとんど無くなり、財政的にも厳しくなっていることから、「保養支援をいつまで続けていけるのか…?」という問題提起がなされ、それぞれの意見、思いを出し合いました。

- ・利用家族のアンケートには「来てよかった」「原発事故から8年も経ったのに支援を続けてくれていることに感謝」「家族単位で家と同じように過ごせて良い」「また利用したい」等の声が多数寄せられている。そのようなフクシマの家族の声に背中を押され「がんばっていこう」という気持ちになる。困難はあるが、ニーズがある限り続けていこう。
- ・「守る家」設立当初は、時間に自由が利くサポーターも数名いて沢山の家族が保養に来て受け入れができた。その後サポーターの事情も変わり、時間に自由が利くサポーターが少なくなったがそれでも皆で協力し合い活動を継続してきていることはすごいことだと思う。
- ・今年度は財政活動を頑張りながら、1家族でも多く「守る家」にきてもらえるように、保養を支援している団体(受け入れ全国協議会)や「母子の疎開支援ネットワーク」の掲示板に「守る家」の存在を発信し、放射能に悩む親子に保養を呼び掛けよう。
- ・同じように保養支援活動をしている他団体と情報交換、悩みを共有し、活動を続けるパワーをもらう。

以上のように率直な意見交換の場となり、有意義な総会となりました。

ご参加いただいたサポーターの皆様、ありがとうございました。

2019年度選出役員

○代表：高橋裕子 ○副代表：森純子 ○事務局長：白幡修 ○会計監査：金丸学

「庄内で放射能汚染について学ぶ勉強会」開催予定

日時：2019年9月1日 13:30～

場所：山形大学農学部3号館103講義室

講師：村上直行さん

(新潟県阿賀野市：あがの市民測定室「あがのラボ」代表)

参加費：500円 ※当日は、放射線量測定器を持ち込んでの実演あり！



※勉強会のテキスト、「17都県放射能汚染マップ+読み解き集」2000円(定価2500円)で普及しています。この本は、原発事故後全国に立ち上がった「放射能測定室」が「原発事故がもたらした被害を明らかにし、事故を風化させない」との思いで、市民の力を借りて土壌、水、食物等あらゆる物の放射線量を測り、データ化した集大成です。また「生活の中で気をつけていくこと」「原子力防災」についても書かれています。関心のある方「守る家」までお問い合わせください。



お問い合わせ先：フクシマの子どもの未来を守る家：事務局 080-6023-7490